

第22回 にのみや観光フォトコンテスト入賞作品講評

○推薦 「みんなで見上げる冬花火」 町野正樹さん

ブルーモーメント（夕の薄明）の空に、七彩の光跡を引き梅沢の浜に輝く冬花火。三々五々、その優美な光の競演に見とれる人々を画面内にバランスよく絡め、寛ぎの一時の臨場が伝わります。花火を捉える携帯の液晶が其処此处で光るのも、今、を表しています。

○特選 「春の情景」 本間浩一さん

満開のソメイヨシノが残雪の富士山をシッカリと支え、山頂の上空は霞んで見える。爛漫の春を迎え、明快で陽気に満ちた吾妻山の好日感が伝わります。山頂の芝原に身を預け、この駘蕩とした光景にひねもす浸る心地となります。

○特選 「地引き網」 本間成子さん

相模湾の海面が樽を寝かしたように盛り上がって写る様子は、超ワイドレンズ特有の画像描写です。しかし、画面左右に張り出た漁網と地引きに加わる人群が誇張されず、自然な印象描写を与えるスナッフ撮影術は的確且つ、巧みで夏の勢いをも感じます。

○特選 「厳かに浜降り」 青木房雄さん

相模の二宮、川勾神社の秋の例大祭みそぎ祭り（浜下り祭り）。垂れ込める低層雲に高張提灯が仄明るく浮かび、夕間暮れの梅沢海岸で行われる渡御のクライマックスシーンを的確にフレーミングされ、厳かに執り行われる神事の雰囲気伝わります。

○特選 「上手に撮って」 藤江健次さん

満開のナノハナを背にお手軽な iPhone で無く、高級機種らしき一眼レフカメラで二人仲良く自撮り。手にしたマスコットキャラクターをポイントに、さぞフォトジェニックなセルフポートレート作品となったでしょう。黒と黄の対比が鮮やかで背景から濃厚なナノハナの香りが漂います。

○第 22 回「にのみや観光フォトコンテスト」審査総評

この度、初めて審査に加わりました。二宮町は相模湾に面し後背を自然豊かな丘陵が囲う、国内有数の気候条件に恵まれた地に位置します。それを反映し水と木々の緑、季節の草花や年中行事をモチーフとした作品が多く寄せられました。押しなべてカラフルな色合いの作品が多いと感じましたが、色彩のバランスは程よく町のコンテストとして、高水準レベルの印象を受けました。